

研究成果報告書

令和2年 8月 15日

1. 所属・職・氏名 等

学校教育学科 准教授 堤 英俊

2. 研究課題（テーマ）名

特別支援教育と多文化教育の実践的交差に関する研究

3. 研究期間

令和元年度 から 令和元年度まで

4. 利用した研究費の種類及び金額

若手教員研究促進費 200,000 円

5. 研究の概要

本研究の目的は、発達障害のある子どもの日本の通常学級での学びへの参加を保障するためのインクルーシブな学級づくりの方法を解明するために、特別支援教育と多文化教育を交差させた授業実践づくりに関して理論的に検討することにあつた。具体的には、文献精読による研究を基軸にしつつ、北米におけるエスニシティに限定されない多様な差異カテゴリーを視野に入れた異文化間教育学に着目して取り組んだ。

6. 研究成果等

1つ目の作業として、批判的社会理論を背景に持つ異文化間教育学の諸理論に関して検討した。具体的には、H.A.Giroux による「境界教育学」に注目し、2011年刊行の著作である『On Critical Pedagogy (Critical Pedagogy Today Book 1)』の翻訳を進めて、関連する文献を収集しながら、検討を行った。未完であるが、第1稿が完成し、出版を目指して、推敲を重ねている。

2つ目の作業として、障害学者であるN.Erevellesによる「障害の観点からの批判的障害学」について着目し、著述を収集して検討を行った。精読を通してコードを付し、フェミニスト・ペタゴジーやクイア・ペタゴジーとの関係性に焦点をあてて検討した。

3つ目の作業として、授業実践を通して研究が進められている異文化間教育カリキュラムに関する諸理論に関して検討した。その研究成果は、下記の実績欄に示す、共編著『アクテ

ィブ・ラーニング時代の実践をひらく『障害児の教授学』や、論文「インクルーシブ教育の実践イメージジャズる学級社会をつくるー」に盛り込んだ。インクルーシブ教育と異文化間教育との理念的、実践的重なりの様態が明らかになった。

7. 研究の実績（論文・発表 等）

- ・【分担執筆】 湯浅恭正・新井英靖・吉田茂孝 編『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房、2019年5月
- ・【共編著】 障害児の教授学研究会 編『アクティブ・ラーニング時代の実践をひらく「障害児の教授学」』福村出版、2019年10月
- ・【書評】 堤英俊「窪島務『発達障害の教育学ー「安心と自尊心」にもとづく学習障害理解と教育指導ー』文理閣、2019年」SNEジャーナル、日本特別ニーズ教育学会、第25巻、2019年10月
- ・【論文】 堤英俊「合理的配慮と発達支援のあいだー福祉教育の場をつくるにあたってー」日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要、第33巻、2019年11月
- ・【論文】 堤英俊「インクルーシブ教育の実践イメージジャズる学級社会をつくるー」『ねざす』神奈川県高等学校教育会館教育研究所、第87号、2020年3月